

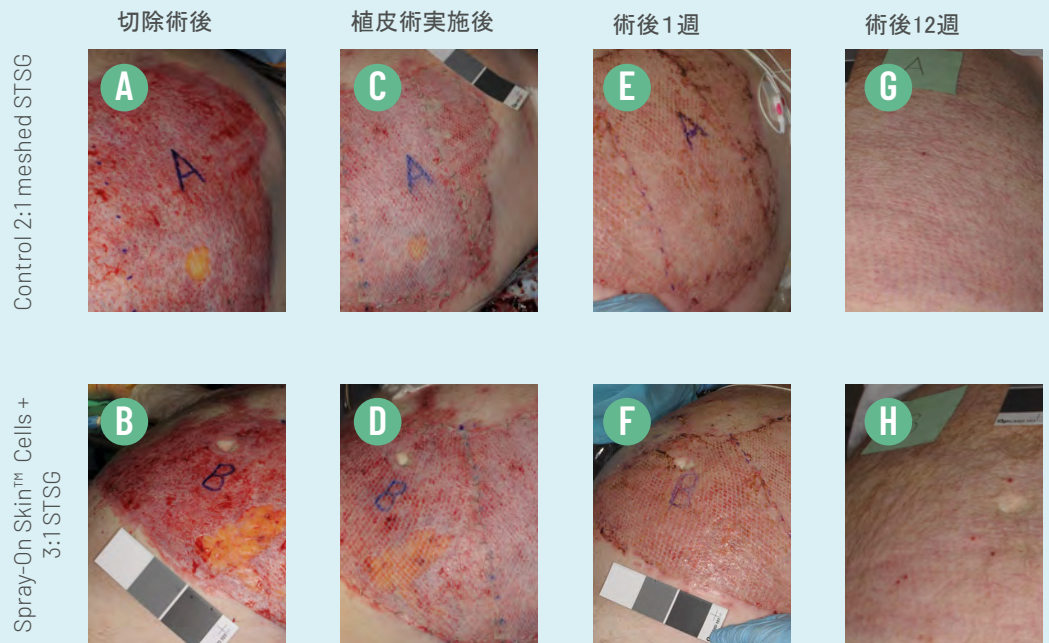
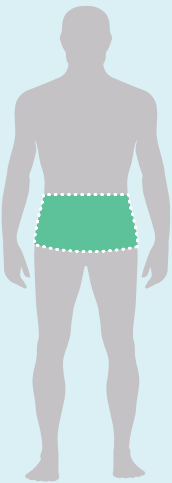
# RECELL® システムを使用した治療により、全層熱傷の網状植皮 使用部位の治癒が促進され、早期上皮化が得られた

CASE STUDY / James H. Holmes IV, MD, FACS / Wake Forest Baptist Medical Center, Winston-Salem, NC

## 患者の状態

火炎による全層熱傷を受傷した60歳男性。本症例では、腹部に対する2:1網状分層植皮 (STSG) による治療と3:1網状STSGとSpray-On Skin™ Cellsを組み合わせ使用したRECELL治療に注目する。

## RECELL治療部位



## 治療法

この患者の治療は、前向き無作為化比較試験の一環として実施された。全ての治療部位に接線切除を行い、無作為化を実施した (図A&B)。コントロール部位として2:1網状分層植皮術 (STSG) を行った (図C)。RECELLシステムを使用し、Spray-On Skin™ Cellsを作成、それを3:1網状STSGの上から適用した (図D)。どちらの治療部位もTelfa™ Clearで被覆した後、その上からXeroform™及び厚みのあるドレッシング材で被覆を行った。

## 臨床的アウトカム

2:1網状STSGと比べ、3:1網状STSGとSpray-On Skin™ Cellsの組合せ治療により、採皮面積が34%縮小された。術後1週目にドレッシング材の除去を行い、再上皮化の面積が80%を超えていた (図F)。術後2週目、どちらの治療部位も100%の再上皮化が得られた。術後12週目 (図G&H) 患者と観察者による創部評価 (POSAS) を両方の創部に対して行った。観察者のスコアではRECELL治療部位の方が良好な成績であったが、患者のスコアでは両方の治療部位の成績は同等であった。

## 結語

本症例では、従来の自家植皮術に比べ、Spray-On Skin™ Cellsを全層熱傷の治療に使用することにより、治癒や長期の創部アウトカムについて妥協すること無く、採皮面積を縮小することが可能であることが示された。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

